

頭位めまい症

何にしてみても、良い悪いは付きものか。

「めまい」「吐き」「悪いがめまい」というのが、良い病気があるなんて、「冗談じゃあるまい」。

57歳のA子さん。「2、3日前から、目が覚めて起き上がる時にめまいがする。めまいがひどい時は、吐き気がする」と訴える。1回目が回る。吐き気がする。めまいがどれ具合続くのか、Aさんの記憶は定かではない。が、10秒か20秒か、1分を超えることはなかった。

耳鳴りや難聴はないかと聞くと、頭を横に振る。ノーというのか。で、その頭の動かし方では、めまいは起きない。めまいは、寝ていて起き上がる時だけのようだ。となれば、それは、同じ頭の位置で誘発される「頭位めまい症」に違いはない。

めまいの一回の回転性のめまいは、一番多いのは、「良性発作性頭位めまい症」である。中年の女性に多い病気だ。小さな砂粒のような結晶の耳石があるべき位置から剥がれ落ちる。平衡感覚に関わる半規管の中に入り込んで、めまいを起こすのだ。頭を特定の位置に動かした時にめまいが起きるのが特徴である。例えば、Aさんのような

に起床時とか。空を見上げた時などである。めまいの時間は長くなる。

そして、もう一つの特徴は、同じ頭の位置でめまいを繰り返して起こせること、めまいが軽くなってしまうことだ。治療らしいことをしなくても、数回でめまいがしなくなるということが多いようである。

ところが、「悪性発作性頭位めまい症」となる。めまいの経過が違う。同じ頭の位置で誘発されることは同じだ。が、めまいを繰り返しても、軽くなってこないのだ。小脳の腫瘍や出血、梗塞などによるものとされている。めまいに、頭痛や嘔吐などを伴う場合は、MRI（磁気共鳴画像）の検査が必要である。

（石黒修三クリニック・脳神経

外科医：5/2北國新聞掲載）